

## 論文の内容の要旨

### 論文題名

Transdermal fentanyl usage in working-age patients undergoing cancer treatment: Prescription pattern analysis using large claims data in Japan

(就労年齢がん患者におけるフェンタニル貼付剤の使用状況：日本の社会保険レセプトデータを用いた処方パターンの分析)

Journal of Pain and Palliative Care Pharmacotherapy

Vol. 35 No. 未定 P. 未定 2021年 (掲載予定)

薬学研究科 薬学専攻(病院薬剤学) 大戸 祐治

### 内容要旨

**【背景・目的】**がん治療を受けている就労年齢患者が増えている。これらの患者では就労と痛みのコントロールを両立するために、フェンタニル貼付剤を使用することがある。しかし、フェンタニル貼付剤はベンゾジアゼピン系薬剤との相互作用や発熱による薬物動態の変動があることが知られている。以前我々はフェンタニル貼付剤とベンゾジアゼピン系薬剤を併用中に発熱し、フェンタニルによる有害事象が出現した症例を報告した。そこで本研究では、フェンタニル貼付剤を使用している就労年齢がん患者におけるベンゾジアゼピン系薬剤の併用割合と発熱の予測因子を明らかにした。

**【方法】**360万人以上の患者を含む匿名加工情報として提供を受けた社会保険レセプトデータを使用した。最終的に、フェンタニル貼付剤を開始した就労年齢(20~60歳)がん患者759人を分析した。

**【結果】**フェンタニル貼付剤の初回投与時にベンゾジアゼピン系薬剤が併用されていた患者の割合は16.5%であったが、フェンタニル貼付剤の投与開始から30日以内に39.3%に増加した。発熱の予測因子は、男性、消化器系がん、血液系がん、腎臓病であった。

**【考察】**フェンタニル貼付剤を用いて疼痛治療を行う就労年齢がん患者に適切な薬物療法を提供するために、安易なベンゾジアゼピン系薬剤の併用を避けること、発熱予測因子を有する患者をモニタリングすることに注意し、有害事象の発生を回避すべきである。